

平成 21 年度相談支援部会・地域移行促進部会合同部会の内容

[ 講演の主なポイント ]

テーマ『地域のネットワークと自立支援協議会』～ 障害者支援と地域のネットワークのあり方について～  
講師：ルーテル学院大学 高山 由美子氏

- (1) 自立支援協議会 = ネットワークを考えることが前提  
ネットワークの“状態”と“機能”を協議会は考えていくことになる。
- (2) ネットワーク = “状態”と“機能”のこと。  
常にメンテナンスが必要で、協議会でメンテナンスを行う。
- (3) ネットワークは目的により変化する。  
個別 地域 個別の連続性を持ったネットワークの構築が必要となる。
- (4) 協議会でやる地域の評価 = 次の3つを見ていくことである。  
地域の变化がどのように現れているか  
ネットワークの取り組みがどのように変化しているか  
ネットワークが地域の变化にどのように現れているか など

[ グループ討議 (主な観点) ]

テーマ『地域で生活していくための人的支援について』

～(論点) 望まれている人的支援とは！ 本人にとって必要な情報とは！～

Aグループ

- ・医療機関に伝えたい情報 知っている人(ex グループホーム世話人)
- ・受診に困っている実態
- ・地域全体に障害を理解してもらう取り組み
- ・訪問看護・ヘルパーの育成
- ・誰に相談していいかわからない 複数の関係機関必要
- ・グループホームを卒業した人のフォロー。地域の中の世話人必要

Bグループ

- ・支援者、困難性の例
- ・退促の課題。支えるシステム必要
- ・社会資源が少ない
- ・医師について。障害に理解がある医師、投薬中心、カウンセリング弱い。良い医師とは、
- ・話し相手、服薬確認担う人的資源必要

Cグループ

- ・同性、同年齢の支援者(ピア)
- ・当事者側に立った支援
- ・障害の理解(本人、家族、周囲の人) ロールプレイ(メンタル面での交換)
- ・その人なりのネットワークづくり
- ・インフォーマルな人的ネットワークの活用もあり 住民とのつながりつける

Dグループ

- ・保健センターと相談支援事業所のネットワーク
- ・福祉事務所と相談支援事業所、オブリガードと保健センターのネットワーク
- ・主を受け止める窓口は複数必要
- ・訪問等で家庭に入って支援できる
- ・医療は保健センター、生活相談は相談支援事業所、重なるところ残しつつ協力
- ・区役所は人事異動あり、支援の継続性がはかれないこともある
- ・保健センターのデイケア、居場所も含めた一時的な生活訓練の場必要、永続的に通えないため次のステップが問題
- ・〇〇ノートは上手に活用して有用、課題は個人情報管理